

「北陸地域におけるフェムテック産業振興の可能性研究会」
報告書(概要版)

1. 北陸地域における女性活躍の現状と課題

(1) 女性活躍の現状

- ・就業面では、女性の就業率は高いが、管理職比率が低い。長時間労働が評価されるなど、これまでの男性管理職の働き方が基準になっており、女性がチャレンジしたいと思にくい。
- ・健康面では、女性は仕事と家庭の両方を担いながら、多忙を極めている。しかし、家事支援サービスの利用等、負担軽減の仕組みは浸透していない。

(2) 女性活躍が進まない背景

固定的な性別役割分担意識が影響し、男女の無償労働時間の不均衡や長時間労働、家庭の事情を考慮しない転勤等、日本型雇用慣行の存在が、専業主婦や家計補助としての働き方を生み、ジェンダー不平等の悪循環を形成している。

(3) 女性活躍に向けた課題

北陸地域では、長時間労働が評価される慣習や、女性が家事や育児に責任を持たされていること、就業率は高いが、管理職比率が低いことなどを踏まえると、女性活躍の課題は以下のように整理できる。

- ① 地方・中小企業における女性活躍の促進
- ② 固定的性別役割分担意識や無意識の思い込みの解消
- ③ 家事・育児等の無償労働時間の男女間の偏り(時間格差)の解消
- ④ 女性の就労意欲をそぐ諸制度の見直し

(4) 課題解決のための構想

a. フェムテック産業振興に向けた指標の設定

フェムテックを活用した課題解決の具体化に向け、KGI、KSF、KPI について設定した。

※KGI(経営目標達成指標)とは、Key Goal Indicator の略で、企業の経営戦略やビジネス戦略を達成するために何をもって成果(ゴール)とみなすのかとする指標のこと。KSF(重要成功要因)とは、Key Success Factor の略で事業戦略において事業を成功させるために必要な要因を指す。KPI(重要業績評価指標)とは、Key Performance Indicator の略で、企業の最終目標を到達するまでの間に存在する、各プロセスの進捗度を明確にする目的で設定する指標。

- ・ KGI: 2030年の地域の理想の姿として、北陸地域はジェンダーエクイティーが推進されるとともに、女性が活躍しやすく暮らしやすい(働く・学ぶ・住む)社会が実現され、もって地域経済活性化と持続性に寄与している。
- ・ KSF: WHOの健康の定義から、以下の通りとした。
 - KSF-1: 身体的健康の向上
 - KSF-2: 精神的健康の向上
 - KSF-3: 社会的健康の向上
- ・ KPI: KPI-1: 地域資産や人的資源の最大限の活用
 KPI-2: 女性健康に係わる新たな価値の創出
 KPI-3: 個社や業界、県境の壁を越えた連携の実現による知識や技術のオープンイノベーションの創出
 KPI-4: Femtech as a Serviceの構築に向けたデジタル技術等の活用
 KPI-5: 地域におけるフェムテックに対する認知度向上や普及啓発

b. 事業のアイデア(KSF毎に分類)

KSF	事業アイデア
【KSF-1】 身体的健康の向上	【KPI-1】地域資産や人的資源の最大限の活用 ・ 伝統的地域産品と既存食品をフェムテックにて結びつけた新食品やサプリメント類の製造
【KSF-2】 精神的健康の向上	【KPI-2】女性健康に係わる新たな価値創出 ・ フェムテックによるメンタルヘルス系のサービスを提供
	【KPI-4】Femtech as a Serviceの構築に向けたデジタル技術等の活用 ・ 地元大学の精神科の強みを活かしフェムテック分野での連携を促進
【KSF-3】 社会的健康の向上	【KPI-1】地域資産や人的資源の最大限の活用 ・ フェムテック産業について、地域の優位性、研究機関や大学の基盤、優れた研究者所在等、フェムテックの人的資源の分布を見える化(マップ化)
	【KPI-2】女性健康に係わる新たな価値の創出 ・ フェムテック製品のエビデンス構築等をサポートするプラットフォーム・サービスを提供
	【KPI-3】個社や業界、県境の壁を越えた連携の実現による知識や技術のオープンイノベーションの創出 ・ フェムテック産業に、3県連携に向け、経済産業省の連携支援計画の仕組みを活用
	【KPI-4】Femtech as a Serviceの構築に向けたデジタル技術等の活用 ・ フェムテックが、地域や社会の健康促進にどのように貢献できるかを評価するプラットフォームを構築
	【KPI-5】地域におけるフェムテックに対する認知度向上や普及啓発 ・ フェムテックの普及啓発において、ポスターやメディアを活用し、学校や大学の教育プログラムへの組み込み

2. 事業化に向けた具体的な方策(有識者からのプレゼン内容をヒントにして)

a. フェムテック製品・サービスのニーズ把握

女性のウェルビーイングには表層的ニーズと潜在的ニーズがあり、内面・精神的側面や女性社会学的視点が必要である。また、臨床や実証によるエビデンスの確立が重要である。

b. 経済産業省のフェムテック関連施策の活用

経済産業省は、令和3年度から「フェムテック等サポートサービス実証事業」を展開しており、採択テーマは身体的健康に関する内容が多く、これらの製品・サービスは企業の生産性向上等に寄与するため、継続してサポートする予定である。

c. バイオデザインを用いたニーズドリブな医療イノベーションの創出

バイオデザインは、ニーズ・プルのアプローチを採用したプログラムで、新商品・新サービス創出に最適なプログラムであることから、製品が売れないという問題を回避できる。

d. 社会的健康の事業化を実現するデザイン思考の活用

デザイン思考は、社会的健康向上の事業化という課題解決に活用できる。製品・サービスの開発では、キッズデザインを活用して新たな視点や気づきを取り入れることが重要で、高齢者等にも適用可能である。

e. 北陸地域におけるフェムテック産業振興に向けての方策

産業振興に向けたネットワーク構築として、過去に取り組んだ文部科学省事業のネットワークをアップデートし、ニーズ把握や共同研究の組成、地域の産業や企業、大学、公設試との連携等により、新しい動きを作り出す。また、地域の大学発スタートアップの支援を通じて、フェムテック産業振興を加速する。

3. 今後の活動案

(1) 基本的認識

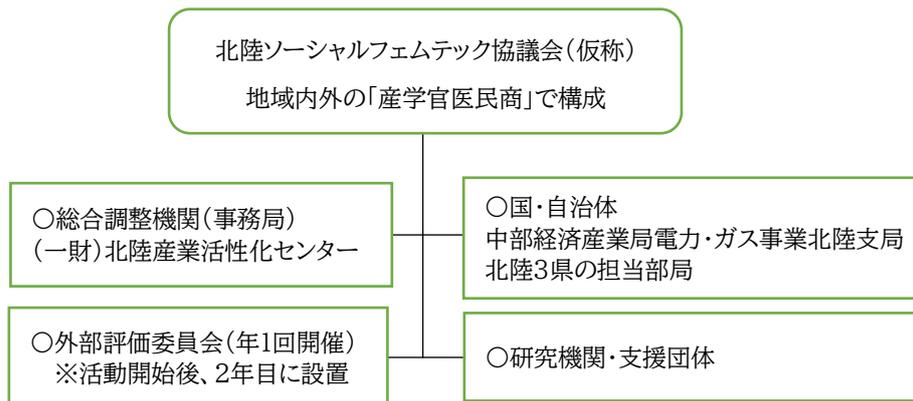
地域のフェムテック産業振興は、過去の経験で得た知見と構築したネットワーク活用によるニーズ把握に加え、バイオデザインやデザイン思考を活用し、さらに販路(出口)も想定したプログラムを展開することにより、地域経済の活性化を具現化するフェムテック産業振興が可能になる。

(2) 中間組織の設置

「産学官医民商」の連携を促す組織として、北陸3県連携のもと北陸産業活性化センターが中心となり「北陸ソーシャルフェムテック協議会(仮称)」を令和7年度に設置することとし、その準備として令和6年度は、組織・体制の整備や産学連携による共同研究の創出、普及啓発等に取り組んでいく。

a. 「北陸ソーシャルフェムテック協議会(仮称)」の体制

会長	地域内の有識者、民間企業の代表者等
総合調整機関(事務局)	(一財)北陸産業活性化センター
会員	北陸3県の企業(金融機関含む)、大学、医師、市民(NPO)等



b. 「北陸ソーシャルフェムテック協議会(仮称)」の活動

活動項目	内 容
地域企業の産業ポテンシャル調査	地域のフェムテック関連団体、スタートアップ、研究機関、人材を調査し、産業の現状やポテンシャルを調査する。
研究会の開催	フェムテック関連の「産学官医民商」などの関係者をつなぐネットワーク強化を促進するため、研究会を開催する。
教育プログラムの提供	フェムテックに関連するセミナー・ワークショップを開催し、技術やビジネスに関する知識を共有するとともに、地域の人材育成を促進する。
共同研究の推進	地域の企業や研究機関と連携し、フェムテック関連の共同研究プロジェクトを推進するとともに、新技術や製品開発、イノベーションを促進する。
国機関や自治体との連携	国機関や自治体と連携し、フェムテック産業の発展をサポートするための政策提言や補助金の活用などを促進する。
プロモーションの実施	HP 等の活用により、フェムテック企業や新技術等を国内外に積極的に情報発信し、フェムテックの普及、地域ブランド向上、新たなビジネス機会の創出を促進する。
起業家・スタートアップの支援	フェムテックの起業家やスタートアップ、企業に対し、マッチング、ビジネスモデル構築、市場参入戦略の策定、販路開拓(出口)等、実用的な支援を行う。

c. 「北陸ソーシャルフェムテック協議会(仮称)」に向けた令和6年度活動スケジュール

活動項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
中間組織設立に向けた準備 ・ 会員の勧誘、役員選定等 ・ フェムテック関連団体・スタートアップ・研究機関・人材等の産業ポテンシャル調査	—————▶											
研究会の開催(4回)				▶			▶		▶			▶
フェムテック・ワークショップの開催 ・ バイオデザイン関連(1回)					▶							
地域内外の機関との連携 ・ 企業・大学・研究機関とフェムテック共同研究等の組成を推進 ・ 国や自治体の補助金申請等	—————▶											
プロモーションの実施 ・ HP 等による普及啓発	—————▶											

以上